

国内新築木造住宅用制震ダンパー 供給実績No.1^{*} 企業の「MAMORY」

いつか来る、地震に備える。余震に備える。

※「国内の新築木造戸建て住宅用制震ダンパー(2023年1月～2023年12月の納入期間)」に関する市場調査(2024.5.10時点)＜株未来トレンド研究機構調べ＞



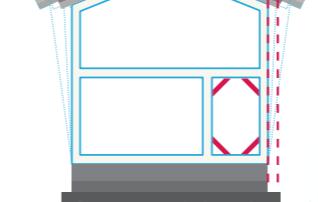
震度7相当の加振2回目の変形量

348mm

40mm



MAMORY 非装着



MAMORY 装着
耐震+制震

※実験をもとにしたイメージイラスト。※2017年2月京都大学防災研究所でのMAMORYを使用した実大実験の結果であり、震度7相当の加振2回目の地震波に対する層間変形(揺れ幅)の比較による。

実大振動台実験の様子はこちら▶



日本列島を守る、MAMORYの制震技術。



制震ダンパー MAMORY の実績

● =震度6弱以上を観測かつMAMORYの納品実績があった市町村
○ =2017年のMAMORY販売開始以降、震度6弱以上を観測した地震の震源地(発生当時MAMORY納品実績がなかった地震の震源地も含まれます)

豊後水道の地震
2024.4.17
最大震度 6弱

石川県能登半島を震源とする地震
2022.6.19
最大震度 6弱

発売以来全壊半壊0の実績!

能登半島地震
2024.1.1
最大震度 7

北海道胆振東部地震
2018.9.6
最大震度 7

震度6弱以上 ※3
エリアにおける実績

全壊
半壊 0^{*1}
棟
418^{*4}
棟

※1:住宅事業者(ハウスメーカー・工務店)からの報告件数を含む当社の抱握している件数です。地震による全壊・半壊に関する実績であり、液状化などの地盤被害による建物被害は対象に含まれません。※2:ただし、北海道胆振東部地震でのMAMORYの納品実績は震度6弱を観測した市町村に限られます。※3:MAMORY販売開始以降発生した地震において、震度6弱以上を観測した地点の所在する市町村における納品実績。※4:地震発生日の前日までに納品した数量から算出した棟数であり、一部、設置・完成前の住宅が含まれています。なお、気象庁が特定の名称を定めた一連の地震を除き、同一の市町村において、震度6弱以上の地震が複数回発生した場合の棟数は複数回計算しております。(例:2021年2月と2022年3月にそれぞれ福島県沖を震源として発生した地震)

60年間 制震性能は ほとんど変わりません*

制震効果が60年*持続。メンテナンスも不要です。



メンテナンス
FREE

※住友ゴム工業(株)の促進劣化試験の結果による(高減衰ゴムダンパー部分において)

● 熊本城の天守閣、京都の東本願寺にも採用。※



※MAMORYと同じ制震技術を用いた制震ダンパーを使用。



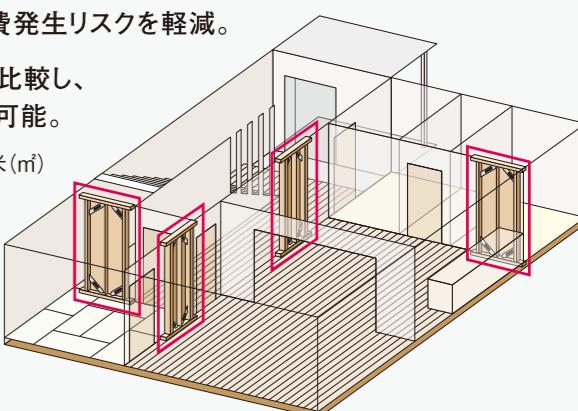
● 1階に4ヵ所*設置するだけで 制震効果が得られます。

1階に4ヵ所*のみの設置により施工可能。

地震後の補修費発生リスクを軽減。

免震システムと比較し、
低コストで導入可能。

※延べ床面積140平米(m²)
以下の住宅の場合、
但し多雪地域は除く



繰り返しの地震が恐い。繰り返しの地震に強い。